令和4年度

ふるさと秋田 農林水産大賞

受賞者の紹介

[大賞の概要]

先人が作り上げた美田や農産物、豊富な森林資源などを次の世代に受け継いでいくため、「ふるさと秋田農林水産ビジョン」の目指す姿の実現に向けて、模範となる活動を展開し、顕著な実績を上げている農林漁業者等を表彰するとともに、その取組を広く普及し、魅力ある農林水産業と農村漁村づくりを推進します。

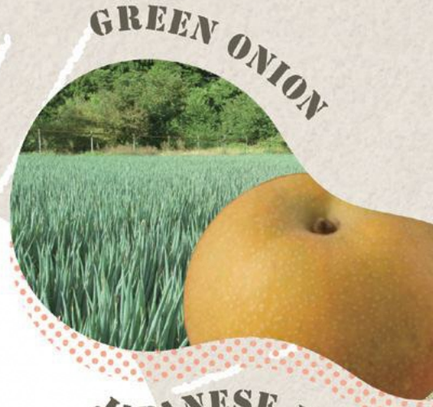
[各部門の表彰対象]

産地部門
産地の特徴を活かし、積極的な産地拡大に取り組む農業者等で組織する集団

担い手部門
【経営体の部】
農業・漁業経営で優良な実績を上げ、地域のモデルとなる個人や法人等

【未来を切り拓く新規就農の部】
地域の担い手として、活躍が見込まれる新規就農者や農外からの参入者等

農山漁村活性化部門
6次産業化、食育、直売活動、耕作放棄地活用、グリーン・ツーリズム等、地域を活性化する活動を行っている法人、集落、集団等



令和4年度

ふるさと秋田 農林水産大賞

受賞者の紹介

Congrats

産地部門

★JAかづの きゅうり生産部会
（鹿角市／農林水産大賞）

Congrats

担い手部門

【経営体の部】

★農事組合法人細越牧場
（山本郡三種町／農林水産大臣賞・農林水産大賞）

【未来を切り拓く新規就農の部】

★太田 美鶴
（大館市／農林水産大賞）

Congrats

農山漁村活性化部門

★三吉農園
（仙北市／農林水産大臣賞・農林水産大賞）

秋田県

Congrats

産地部門

大賞

JAかづの きゅうり生産部会

磨き上げられた技術で秋田のきゅうり産地をリード!

所在地 鹿角市　**作付面積** 11.0ha
品目 きゅうり　**会員数** 131名

鹿角地域では、稲作との複合品目として、昭和40年代からきゅうりが導入され始め、昭和50年頃にJA生産部会が発足しました。昭和51年にきゅうりでは県内で最も早く国の指定産地に指定され、長年にわたり大消費地への安定供給の役割を果たしてきました。

露地栽培の平均単収は、高い技術力により県内JAトップの約15t/10aを確保しており、近年は、更なる安定生産のため、種苗メーカーと連携した新品種や栽培方式の試験、AI自動灌水装置の実証などの最新技術の導入に意欲的に取り組んでいます。

JAでは、新規や規模拡大の生産者に対して、アーチ支柱の無償貸与やほ場確保の支援を行っているほか、鹿角市では、篤農家と連携した就農研修を実施しており、毎年若手の新規就農者を確保し、産地の維持・活性化を図っています。

Congrats

農山漁村活性化部門

大賞 農林水産大臣賞

三吉農園

シェア加工所の整備で地域の味と食文化を守る

所在地 仙北市　**作付面積** 40a
品目 いぶりがっこ（だいこん）　**構成戸数** 1戸（連携農家4戸）

代表の加藤さんは、「いぶりがっこを作りたい」との思いで帰秋し、近隣の先輩農家に教えてもらいながら、いぶりがっこの製造・販売をスタートさせ、就農後3年目の平成29年に三吉農園を設立しました。

令和2年には、改正食品衛生法への対応に苦慮していた先輩方も共同で利用できるシェア加工所を整備するなど、地域の味と食文化の継承に大きく貢献しています。

また、コロナ禍で落ち込んだ地域の商品や、県内の加工食品を首都圏に売り込むなど、販売にも力を入れています。

令和3年に始めた農家民宿では、いぶりがっこの購入者や県外の学習旅行者の受け入れを行うなど、首都圏との交流人口の増加と仙北市のPRにも一役買っています。

Congrats

担い手部門

大賞 農林水産大臣賞

農事組合法人細越牧場　経営体の部

親子で目指す大規模酪農経営

所在地 山本郡三種町　**飼養頭数** 搾乳牛278頭
品目 酪農（乳用牛）　**構成戸数** 1戸（構成員3人、従業員6人）

平成27年に三種町の酪農経営が当法人のみとなったことを契機に、「地域に感謝し、地域を活性化させること」を理念に、代表が規模拡大を決意しました。平成29年には長男が経営に参画し、県内最大の酪農経営体へと成長しました。

規模拡大とあわせて、個体管理を徹底するため、ICT機器を導入して個体毎の繁殖行動や乳量等のデータを蓄積するとともに、従業員や関係者がそのデータをパソコンやスマートフォンで共有しています。

また、自給粗飼料を増産するため、牧草地の拡大や、近隣農家との連携強化によるイネWCSの取組を進めています。

加えて、良質な堆肥生産にも積極的に取り組み、JAの堆肥流通施設を通じて地域農家へ還元するなど、地域内で耕畜連携が図られています。

Congrats

担い手部門

大賞

太田 美鶴　未来を切り拓く新規就農の部

ねぎでスタート!
高齢化が進む果樹産地の継承者に

所在地 大館市　**栽培規模** ねぎ80a
日本なし40a、りんご10a
品目 ねぎ、日本なし、りんご

大館市生まれ東京育ちの太田さんは、大学で果樹を専攻し、日本園芸農業協同組合に就職しましたが、仕事で全国の果樹産地と交流するうちに、果樹農家になる夢が蘇り、「悔いの無い人生を」との想いで、平成30年に大館市へ移住し、地域の果樹生産者の元で栽培技術を学びました。

果樹での就農を希望していましたが、樹園地の確保が難しく、まずは、ねぎ栽培で経営の早期安定を目指すことにしました。

現在は、秋冬作型と育苗ハウスを活用した大苗早どり作型を組み合わせることで、8月～12月の長期出荷に取り組んでいます。

就農2年目に、廃園を考えていた方から日本なしの園地を借りることができ、念願の果樹栽培をスタートさせ、消費者ニーズの高い品種を導入するため、改植を進めています。

地域の果樹農家の高齢化が進み、経営を断念する生産者が増えている中、果樹産地の継承者としての活躍が期待されています。